

願成寺報

平成二十四年三月十四日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

春季彼岸・永代経のご案内

左記により勤修いたします

万障お繰り合わせて お誘い合わせてお参り下さい

草取り会

境内・墓地の草取り・掃除会を催します

供餅の餅つきも予定しています

親睦が目的です 短時間でも結構です

お気軽にご参加下さい

コンビニ弁当ですが 昼食までお付き合下さい



「事に仕える」

成果がハッキリと分かる仕事は楽しいものです。

没頭できれば余計なことを考えなくて済みます。

他の人が褒めてくれるし、

自分でも達成感がある。

東京でしていたコンピュータの仕事が懐かしく思い出されます。

お寺の仕事は、何か成果がハッキリしません。

お布施ですから、収入の金額で測ることはできないし、

冷や汗かいてこんな文章を書いても、成果なのかどうか：

「詰まらん、鼻もかめない」と捨てられているかも知れません。

唯一、達成感があるのが掃除と草取りですが、

最近少しサボっています。

これではイカンと反省ばかりで苦しくなります。

やっぱり住職は荷が重いなあ。

体力・知力が衰えてくると、出来る仕事越来越少くなります。

けれど、だから、大切な仕事が出来ようになります。

明るく領いて過ごすこと。

悩みに煮詰まった時、老僧と言われるお寺様に相談に行きます。

その人は、タバコを吸いながら私の話を聞いてくれます。

話が終わると、その人はお茶を飲みます。

そして「大変だねー」と言って、ニヤッと笑います。

それだけ。

それで、私は救われます。

この人は、もっと大きな悩みをくぐり抜けておられる。

そして笑っている。

「私の悩みは小さかったのだ」と、勇気が出ます。



三月 十七日 (土) 午前十時 草取り会・供餅餅つき

十八日 (日) 午後一時 法要

十九日 (月) 午前十一時 法要

二十日 (祝) 午前十時 法要・法話

午前十二時 お斎(昼食)

午後一時 法要・法話

法話 当山住職 福澤 秀倫

正信偈ノート④・弥陀章Ⅰ

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

法蔵菩薩因位時 在世自在王仏所

黄色の勤行本の

十四ページから

親見諸仏浄土因 国土人天之善悪

建立無上殊勝願 超発希有大弘誓

五劫思惟之授受 重誓名声聞十方

弥陀仏が法蔵菩薩という因位の時 世自在王仏の所に在って

諸仏の浄土の因や 国土人天之善悪を親見して

無上殊勝の願を建立し 希有の大弘誓を超発せり

五劫の間思惟して授受し 名声十方に聞こえんと重ねて誓った

〔浄土真宗本願寺派・注釈版聖典より〕

・仏説無量寿経

このお経は、真宗の根本聖典、浄土三部経のなかの一つです。

親鸞聖人は、このお経について次のように示し、真宗の全てが

このお経の中に収まっていることを伝えておられます。

『真実の教・浄土真宗』

このお経は上下二巻に分かれ、次のような内容となっています。

上巻 「如来浄土の因果」 私達を濟う如来を説く

下巻 「衆生往生の因果」 濟われる私達の姿と濟われ方を説く

上下巻を「諸仏の導き」が繋いでいます

〔参考 大無量寿経の世界・岡本英夫〕

・如来浄土の因果

ある豊かな国の国王が世自在王仏と出遇い、その地位を捨てて出家して法蔵菩薩と名乗りました。様々な仏国の成り立ちと様子を見て、自身の仏国には全ての衆生を迎え入れたいとの願いを建て、その国を実現するために五劫の長きに亘って思惟し、四十八

の願いに纏めました。

兆載永劫の行を積み、菩薩は阿弥陀仏となり、安樂の浄土が実現しました。その浄土の功德は十方世界に諸仏を生み、無量の衆生をその浄土へと導いています。

・衆生往生の因果

煩惱のある世界（穢土・娑婆）に生きる衆生の苦しみの理由を、煩惱の三毒・五悪によると示し、我執の生活を誠めます。そのままではその苦しみから逃れられないと説き「安樂の浄土」に往生する事が苦しみから逃れる方法であると説かれます。

ただ阿弥陀仏の名を聞いて、歡喜してその国に生まれたいと願い、念仏すれば、その功德を身に供える事ができると説いています。名を聞いて称えれば、その浄土に往生することができると。

・親鸞聖人の領き

弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなり。されば束縛の業を持ちける身に於てありけるを、助けんとし召し立ちける本願のかたじけなさよ

〔歎異抄・後序より〕

歎異抄には「地獄一定すみかの私」という表現もありますが、煩惱の三毒・五逆・正法への疑いから離れられない私のために、立ち上がって下さっている仏様があったと、本当に喜んでおられます。無量寿経について、この自覚を促すためのお経だと領かれたのではないのでしょうか。「我執の束縛から離れられない」自覚をもたしたのは、他ならぬ弥陀仏と本願の働きです。「本當に私の上に働いている」聖人にとって自覚がそのまま濟いとなりました。そして、この自覚を深めていく念仏の道を堂々と歩まれたのだと思います。

私はまだ、この聖人の領きを自分のものとして共感していませんが、ここが大切なのだと念仏しております。

「願成寺・本山参拝バスツアーのご案内」

本年四月六日（金）から十六日（月）まで、三重県津市の高田本山にて開山聖人七五〇回遠忌報恩大法会が勤修されます。五〇年に一度の大法会です。

皆様と共に参りたく思い、バスでの団体参拝を計画しました。楽しい旅行にして参ります。是非ご参加下さい。

■日時 平成二十四年四月八日（日）～九日（月）

■日程 八日 八時〇〇分 寺・豊橋駅集合

十時〇〇分 高田本山の宝物と文化財展（※1）

十二時〇〇分 本山着・青少年会館にて昼食

一三時三十分 御影堂・勤行と説教

十五時〇〇分 本山出発

十八時〇〇分 おごと温泉・びわこ緑水亭

懇親会ほか

九日 八時十五分 ホテル発

九時四五分 彦根城・桜の名所と昼食

十三時〇〇分 長浜市・大通寺参拝

黒壁ガラス館他・散策・買物

十八時〇〇分 寺・豊橋駅到着予定

■会費 二万円

■募集人数 四〇名

■申し込み 願成寺までご連絡下さい（人数に達し次第メ切ります）

（※1）湯の山温泉駅・パラミタミュージアムにて



ご本尊【私見?】

十方微塵世界ノ 念佛ノ衆生ヲミソナハシ

攝取シテステザレバ 阿弥陀トナズケタテマツル

《弥陀経和讃・親鸞聖人》

真宗のご本尊は、阿弥陀と名乗られた仏様です。

阿弥陀とは、インドの『アミター（無量の、数えきれない程沢山の）』という言葉をも、中国で漢字に写した言葉です。

お仏壇のお軸には、裏書があります。また、木像を安置する場合

でも、お裏書のお軸を木像の後ろに掛けるのが正式のようです。

お裏書には『方便法身の尊像』と書いてあります。

そのお姿は、私達を導くための仮のお姿だという事です。

阿弥陀仏は、私達を攝取する働きであって、本来姿形はないと教えられます。そしてその働くお目当てが無量だと。

無明（我欲）のために苦しんでいる私達が心配で、座っておれない、立ち上がって「目覚めよ」と呼びかける働きを絵像・木像に表現してあります。

右の和讃には『攝取』に「撰（せふ）はもの逃ぐるを追わえ取るなり」と左訓が施されています。念仏を嫌う人をも嫌わず「目覚めよ」と働き続けています。

様々な生き方を様々なままに目覚めさせる働きをご本尊として仰ぐのが真宗です。我執かもしれないたった一つの正義や論理を振り翳すのは方向が反対です。「念佛する人を憎み誹る人をも、憎み誹ることあるべからず。憐れみをなし悲しむ心を持つべし」

阿弥陀仏の前に念仏しても争いは無くならないかも知れませんが、争う態度が変わると思います。その相手にも「友・同朋」を見出していく… そんな生活が実現されるのだと思います。



行事予定 平成二十四年四月以降

四月	八日	(日)	高田本山・
	九日	(月)	開山聖人七五〇回遠忌大法会 一泊二日・バス旅行にての参拝です
五月	一日	(火)	月例法話会・茶話会
六月	一日	(金)	月例法話会・茶話会
七月	一日	(日)	月例法話会・茶話会
八月	一日	(水)	月例法話会・茶話会
九月	二十三日	(日・祝)	春季彼岸・永代経法会 恒例の彼岸の法会です 法話 戸田 恵信師(前号訂正)
十月	一日	(日)	月例法話会・茶話会
十一月	三日	(木・祝)	高田本山団体参拝 本山の納骨堂法会に参拝します 市内・近郊の高田派寺院と共に バスを借りての日帰り旅行です
十二月	八日	(土)	報恩講 (予定)
	九日	(日)	真宗寺院で一番大切な法会です 毎年二月に勤めていたものを 時期移動しようと思っ ています

● 月例法話会・茶話会 午後一時～当山本堂にて

試みに「一時間位の勤行・法話」と「抹茶の茶話会」で始めます
会が、写経会・念珠を作る会・生花会・茶道会・雅楽会等に
発展したらいいなと思っています

参加の皆様とともに模索して参ります

↓ 後記 ↓

○ 私は皇太子殿下と同日に生まれました。昭和三十五年二月二十三日、毎年この日には殿下お誕生日のニュースが流され、嫌でも自分の歳を知らされます。五十二歳になりました。

殿下について、いろいろ批判があるようですが「好きで皇太子に生まれた訳ではないだろうに：」言いたいことも言わずに飲み込んでいるお姿を拝見し、その境遇を拝察しております。

○ 我が子は平成十年十一月二十八日の生まれです。旧暦のこの日は親鸞聖人のご命日で、誕生の時に誰かが言いました「聖人の生まれ変わりかも知れない」。私はバカバカしいと思いました。が、その子も中学生になりました。

私は子供の頃からお寺のことが大嫌いで、手伝ったことはありませんでしたが、この子は大好きです。本山法会にも出勤しますし、自坊でのお勤めにも嬉々として参加します。「変な子だな」と思います。「ひよつとすると：」と不安になります。私が預かって良いのかどうか： どのように導いたら良いのでしょうか？

○ 「在るがまま」を見せていくより他にないと思います。事に当たって、モガいて、苦しんで： 「父は俗物だったけれど、闘っていたな」と思って貰えればそれで良い。そして、念仏の声が少し耳に残れば良いなと思います。

○ 今年は先代の十三回忌の年です。欲の少ない人で、自分とは全然違う人生を生きたように思います。

「何を闘ったのだろう：」父の五十代を東京に逃げて暮らしていた私には分かりません。父が六十七歳の時に寺に戻りましたが、すぐに大腸癌が発覚し、闘病生活となり、七十歳手前で亡くなりました。「ワシヤ死ぬのは怖くない」と、上ずった声で言っていました。闘っていたのでしよう。困って泣きそうな時、父の落ち着いた念仏の声を、懐かしく聞き直します。